

たんぽぽコ～十～



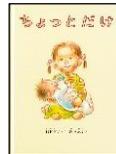
「うずらちゃんのかくれんぼ」



きもと ももこ作

うずらちゃんとひよこちゃんがかくれんぼを始めます。ページをめくると、「もういいかい」「まあだだよ」と子ども達は声をそろえて絵本に呼びかけます。そして、絵をのぞき込んでさがしっこ♪お花やひょうたん、きのこの陰に隠れているのを見つけると「いたー！」と満足気。色彩豊かで、うずらちゃんとひよこちゃんのいろいろな表情や仕草もかわいいですよ。

「ちょっとだけ」



瀧村 有子作

鈴木 永子絵

なっちゃんちに赤ちゃんがやってきて、なっちゃんはお姉ちゃんになります。赤ちゃんのお世話に忙しいお母さんの姿をみて、なっちゃんは、身のまわりのことをひとりでやっていこうとします。難しくてもうまくいきませんが健気に頑張る姿は愛おしく感じます。“ちょっとだけ”できてお姉ちゃんになっていく姿に嬉しくなったり切なくなったり…。なっちゃんとお母さんの心情がよく伝わり胸が熱くなるお話です。

「ともだち くるかな」



内田麟太郎作

降矢 なな 絵

自分の誕生日に来てくれるはずの“だれかさん”を心待ちしているオオカミ。でも夜になっても来ません。翌日、寂しくなったオオカミは、心を捨ててしまいます。そんな中、“だれかさん”が誕生日のお祝いにやってきます。心を捨ててしまったのを一緒に泣いて悲しみ、心が残っていたのを一緒に踊って喜んでくれる。友達っていいな…。さて、“だれかさん”の正体は？オオカミの誕生日っていったいいつ？最後には思わずクスッ。オオカミの心の動きがダイナミックに描かれているのにも注目です。